

博報財団 第 9 回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究概要

氏名（在住国名）	豊田悦子（オーストラリア）
所属	メルボルン大学
招聘回（招聘研究期間）	第 9 回（2015 年 3 月 1 日～2015 年 8 月 30 日）
受入機関	東京外国語大学 国際日本研究センター
招聘研究テーマ	効率的な日本語語彙習得を支援する単語、漢字、構成要素の情報満載データベースの開発
研究目的	オンライン辞書や辞書アプリが数多く開発されているが、先行研究結果に基づいて作成されたものは少なく、そのため、教育的効果の低いものもある。また、情報も偏ったものが多く、そのため、学習者は複数の辞書を駆使することを余儀なくされている。読解、単語認識、語彙、文法関連の研究結果で明らかになった、必要な情報・知識を一カ所で提供できるシステムの開発が望まれる。本研究の目的はそのような読解、語彙習得を支援するシステムのプロトタイプを作成することにある。
<p>研究概要：</p> <p>半年という短期間であったが、有意義な研究ができた。日本滞在中に行った研究活動の概要は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の研究者とのミーティング、及び関連分野の研究会・勉強会に参加。 2. 関連分野の情報・データを入手。 3. 既存日本語学習者用のデータベースとデータベース管理システムの分析。 4. 日本語学習者のオンライン辞書や辞書アプリ使用状況と読解支援システムへのニーズをアンケートにて調査 5. 新データベースソフト（読解支援システム）作成のために補足すべき点を解明。 6. 多機能（関係型）データベースソフト（MOLE）用のデータ作成。 7. システム上でフリーテキストを分析して必要な情報を提供することの難易点とその解決案を熟考。 8. 多機能データベースソフト（プロトタイプ）開発。 9. 研究発表と論文執筆 	
<p>展望：</p> <p>帰国後は本研究に割ける時間は限られるが、何とかして、以下の点において継続、完成したいと思っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作成した動詞・形容詞・助詞・機能語のデータベースの校正 2. 学会発表と論文執筆 3. 漢字語・漢字・漢字の構成要素のデータベース作成 4. 例文のデータベース作成 5. NLP 研究者との共同研究 6. MOLE の本格的開発に向けて助成金の申請 7. MOLE の本格的開発 	